七月十九日正午より上野公園前三共食堂に於て「貯蓄實施上の諸問題」に就て、出席者二十二名

二、京濱地區分科會

七月二十日正午より大森ホテルに於て開催、企畫院美濃口調査官の講演「總動員法と勞働問題」に就き懇談、出席者二十五名

三、丸之内地區分科會

七月二十二日正午より麹町區レインボーグリルに於て「時局下の勞働諸問題」に付て、出席者三十名

川口市勞務管理研究會

川口市に於ける勞務管理研究會例會は七月二十日午後一時半より川口市鑄物工業組合事務所樓上にて開催、會する者約三十名、三井鑛山株式會社勞務課長深川正夫氏の勞務者教育に關する講演あつたる後同氏を中心に質問應答あり、午後四時過散會した。

第四十九回産業衛生研究會

七月二十六日正午より本會に開催、厚生技師より「作業環境の衛生に就て」講演あり引續き本問題に付研究討議を爲し午後四時散會、出席者約百名

工場環境整備指導並設計圖調製

七月中に於て工場環境整備に付坂本囑託が實地指導を行つたのは、三井鑛山附屬目黒研削砥石工場であるが實地指導の後設計圖の調製方依頼を受け本月中に調製して發送せる工場は、三井鑛山研削砥石工場、井上電機株式會社工場、日本レース株式會社工場、日本絹織株式會社工場、日本紡績富久山工場等である。

體育指導

七月十五日愛知縣、同十六日岐阜縣、七月二十一日より八日間山形縣下に赤間囑託出張指導

國民體育研究會例會

七月一日、十一日、二十一日本會に於て例會を開催す。

出版

一、月刊

社會政策時報、産業福利、協調、勞働時報、健康保險時報、産業福利ポスター

一、工場に於ける勞務者教育

一、第十回安全週間報告書

圖書館

七月中(開館日數二六日間)の閲覽者總數は一三七名、内本會職員三九名、官公吏一五名、會社工場職員一名、研究團體調査員一一名、勞働組合關係者二名、教授學生八名、其他二一名の内譯である。閲覽冊數二三二冊、貸出冊數五八冊。

大阪支所

關西工場鑛山環境整備協議會の創立

一、日時 昭和十三年六月九日

一、會場 大阪市北區堂島ビルディング内清交社

一、協議事項 關西工場鑛山環境整備協議會設立の件

一、經過概要 まづ松村支所長、湍生常務理事より挨拶があり、續いて阪本囑託より主旨を説明し、要項を審議決定、關西工場鑛山環境整備協議會を創立した。

一、出席者

大森寛氏(大阪府工場課長)、山崎元英氏(大阪府産業安全協會)、鬼丸勝之氏(京都府工場課長)、西間木吉一氏(兵庫縣工業會)、大倉征次郎氏(大阪都市協會主事)、荒川卓次郎氏(日本電力株式會社)、石神稻治郎氏(内外木材工藝株式會社)、外十八氏。

大阪支所社會問題講座(第五回講習)

大阪支所の社會問題講座は廣く各般の社會人に、社會問題に對する中正穩健なる知識を涵養普及し、併せて人格の向上に資するを目的として一昨年以來春秋二期に分ちて開設し來り回一回其内容が充實するにつれて各方面より多大の反響と好評を博してきたのであるが、その第五回講習會は去五月十八日より六月廿日に亘り毎週月水金の夜六時より九時まで大阪市東區大手前之町國民會館に開催された。今回の講習に於ては、特に時局に鑑み、事變下に於ける相錯綜せる社會の諸問題に對し中正なる認識と進んで健全なる解決對策に資するとともにその内容の統一連絡充實に努めた結果、聽講生はまたまた定員超加百三十三名(内廿五名は特別聽講生)に達した。講習中聽講生はいづれも熱心に聽講し、六月廿日修了式に於いて五日以上の出席者百〇三名に對し修了證書を交付した、好成績であつた。

一、閉講式 六月廿日

一同紀念寫眞撮影後閉講式を擧行し、修了生百〇三名に修了證書を交付した。

一、閉講の辭 協調會大阪支所長 松村勝治郎氏

一、祝辭 法學博士 末川博氏
工場世界社 野田律太氏

一、答辭 講習生代表 片岡健彦氏

名古屋出張所

勞務管理職員講習會

第十回

一、日時 昭和十三年七月七日

一、會場 名古屋市中區白金町名古屋市中央社會館

一、出席者 三十四名

一、講師及講題

戰時統制經濟論(第三講) 名古屋高商教授 赤松要氏

夏期ニ於ケル疾病豫防 名古屋市衞生試驗所長 山口靜夫氏

第十一回

一、日時 昭和十三年七月十四日

一、會場 名古屋市中區白金町名古屋市中央社會館

一、出席者 二十八名

一、講師及講題

戰時勞働調整問題 愛知縣職業課長 三澤房太郎氏

民謠體操講習會

一、日時 昭和十三年七月十五日

一、場所 名古屋市中區與田町樂善館

一、出席者 岐阜縣工場體育指導員山崎數義氏はじめ工場體育指導者十一名

一、講師 協調會囑託 赤間雅彦氏

一、會合概要 工場體育指導者のみに對し民謠體操の理論と實際とを講習せしめられたり

一、日時 昭和十三年七月十五日

一、場所 名古屋市中區與田町樂善館

一、主催 名古屋健康體操研究會
協調會名古屋出張所

一、出席者 七十八名

一、講師 協調會囑託 赤間雅彦氏
名古屋醫大教授 鯉沼茆吾氏

一、會合概要 婦人愛國行進曲及日の丸行進曲の講習會をなし本練習會を毎月二回宛定期的に開催することを申合せて盛會裡に散會。

産業報國運動を中心とする懇談會

A

勞務管理者との懇談

一、日時 昭和十三年七月十日

一、場所 名古屋市中區南大津町中央亭

一、出席者 豐田紡織勞務課長山崎玉三郎氏等八社十名

會合概要 坂井、子安兩氏より報國聯盟創立準備の進行程度に就いて報告をなし次いで懇談に入り厚生省と報國聯盟との關係、報國聯盟と愛知縣案との關係等に就て意見の交換を遂げた。

B

勞働組合側との懇談

一、日時 昭和十三年七月十日

一、場所 名古屋市中區南大津町中央亭

一、出席者 日本勞働組合總聯合會會長高山久藏氏、皇國農民組合同盟會長岩内隆平氏等九團體十五名

會合概要 報國聯盟案の概要説明及其の進捗の模樣を坂井、子安、廣瀨氏等より説明をなし懇談に入り組織方法、勞働組合との關係、平和産業失業者との關聯などに就き隔意なき意見の交換をなした。

社會政策學院

第四十回社會政策講習

本年四月十日開講以來順調に經過し七月八日を以て講義終了、同九日終了式を本學院教室に於て鹽澤學院長、町田常務理事、大内學院主事、藤澤囑託、安岡正篤氏列席の下に擧行、廣瀨書記先づ開會を宣し、大内主事の講習經過概要報告の後、終了證書授與、精勤者表彰、鹽澤學院長の訓辭、町田常務理事の挨拶あり、之に對し終了生總代石井大助君答辭を述べ式を閉じ、一旦記念撮影の後安岡正篤氏の講演あり、次いで協調會一階談話室に於て茶話會を開催して盛會裡に散會した。

社會政策座談會例會

七月二十八日午後六時より本學院教室に於て第四十回修了新入會員歡迎を兼ねた懇談會を開催、當日は町田常務理事より産業報國運動の精神並實踐につき種々解説を伺ひ、後歡迎懇談の會に移り自己紹介其他談々裡に午後九時過迄歡談を重ねた。出席者は鹽澤學院長、町田常務理事、大内主事をはじめ會員五十餘名である。

編輯後記

○産業報國運動の中央本部たる聯盟がいよいよ出來た。と同時に産業勞働界にも戰時色がやうやく濃くなり、尖鋭化した諸問題が次から次へと提起せられつゝある。産業報國聯盟も單に經營内における勞資の平和などと云ふ從來の生やさしい觀點からではなく、もつと深刻な、最も廣汎な産業勞働界における全問題を、産業報國勞資一體の原則を堅持しつゝ對處しなければならなくなるであらう。

○本號は聯盟の生誕にあたるので全面的にこの問題を扱つたのであるが次號からはもつと右のやうな觀點から全面的に諸問題の分析並びにその對策、更にそれを運動の全國的滲透に伴つておこつてくる具體的問題をのせたいと思ふ。(廣瀨)

協調

編輯兼發行人 東京市芝區芝公園六號地協調會 町田辰次郎
印刷人 東京市芝區新芝浦三丁目二番地 川口印刷所
發行所 東京市芝區芝公園六號地 財團法人 協調會 電話芝(43)一三一一 振替口座東京五三、七〇四
毎月一回十五日發行 定價一部金五錢

産業報國聯盟の大精神

産業報國聯盟理事 陸軍少將 松本勇平

皇軍の強さ

皇軍の連戰連勝はもとより大稜威の然らしむる處でありますが、其原因は、一言にせば將兵の何れもが常に必勝の信念を以て進むからであると考へて居ります。

かの皇軍飛行機が、敵飛行機と空中戰を交ゆる際に、いつでも數倍又は數十倍の敵飛行機を撃墜するのであります。彼我飛行機の機能も操縱の技術も大した相違はない筈であるが、唯双方一騎打に相接近する際、自己粉碎を覺悟して驀地に猛進する我飛行機の威力に呑まれてか、彼は一方に避ける、此間髮を容れざる一瞬間こそ勝負の分れ目なのであります。而して此大決心こそ、自己の總てを放棄したときに於てのみ出來る事であります、所謂眞の大和魂即ち盡忠報國の大精神なのであります。此の精神は、獨り皇軍飛行士のみならず、戰場にある總ての皇國軍人の持つ特有なのであります。

某西洋人の許に、日本飛行機は勇敢に戰果を擧げてるが其方法は、理屈に合はぬと言つてゐる。彼等は自分を殺さずして敵を倒すを理想としてゐる。成程夫れは理屈であらう。然し日本は自己を捨てゝ敵を倒す方法を取つてゐる、これは理屈に合はぬ、この理屈に合はぬ處に日本の強さがあるのであります。

個人主義では八紘一宇の大理想は達成できぬ

此大精神こそ、我皇國の持つ特有でありまして、決して個人主義的國家には見ることの出來ないものであります。然し個人主義國家に於ても國家社會に奉仕することは勿論いたしてはをりますが、結局個人が先であり、國家は第二義的になるのであります。自己の利害を第一義とする國の人々にありては、最後の場合に於て自己本性を現はし國家を滅亡に導くことは歐洲戰の最後の結果を見ても明かではありませぬか。歐洲大戰中、第一線が奮戰眞最中に於てすら英國などの勞働者は、盛んに「ストライキ」をやつたではありませぬか、之に反し、今回の事變に對し我國の勞働組合などでは、戰爭中爭議はやらぬと聲明してゐるのであります。

玆に個人主義國民と、我皇國民との間に大なる相違があるのであります。

此相違は何によりて起るかは申すまでもなく皇國の道義即ち盡忠至孝の大精神が根本をなしてゐると思ひます。此大精神こそ、我國の精華であり、東洋平和の基礎であり、三千年來燦として輝ける八紘一宇の御神勅の顯現でもあると思ひます。

皇國の興廢は産業人の結束如何にある。

今や皇軍は着々其成果を擧げつゝあるも、事變の結末は何時終局に達すべきやは、誰れとて確言し得るものがありませうか、事變當初より支那の背後には英、ソ、佛、米の諸國があり今日に於ても少しも其援助の手を緩めざるのみならず、動もすれば極東大戰も起り兼ねまじき形勢にあります。

即ち彼等は、早晩日本は、經濟や産業に於て破産する其時こそ、彼等が有利なる條件を以て解決を強いんとし、然らざれば極東大戰を勃發せしめる時機となるのであります。

經濟即ち物の供給こそ、吾人産業人の責務であり又此際に於ける極めて重大なる役割であつて、皇軍の行動と匹敵すべき程の盡忠の働らきをせんければならぬ秋なのであります。換言すれば、事變の結末を早からしむるも、極東大戰を起さすのも、又之を未前に防ぐのも、吾人産業人の國家的な協力如何にありと言ふても、決して過言ではないと思ひます。

官民の協同と産業人相互の協力

産業人の國家的使命としての御奉公は、單に各事業場が勞資一體たるのみを以て滿足すべきではなく、全國の各産業人が、凡ての巧利的な考へを捨てゝ、相協力御奉公すべきであります。今回創立されたる官民合同の主催にかゝる産業報國聯盟こそ、其目的を達成すべき一大全國的運動であります。

同聯盟綱領第一に曰く、

「一、我等産業人は、國體の本義に則り、産業の國家的使命を體し、全産業人の協力に依り、産業報國の實を擧げ、以て皇運扶翼の使命を完うせむことを期す。」

と示されてあります。

事業場個々に於て、各勞資一體となり獻身各自の業務に精勵し、其成果を擧げ、全國の事業場が擧つて其趣旨を奉じて進むことが極めて必要であることは申すまでもありませぬが、それだけでは尚足りないのであつて、各産業人が總て聯盟に加入し共に相協力することが最も必要なのであります。

恰も戰鬪の場合に於て、軍の各兵科將兵が軍全般の目的に稽へ、各其兵科の特性に應じて相互協力するが如く、同一種類の事業場の相互協力は申すまでもなく、異種産業間も相互協力し國家の大目的に向つて、共に前進することが最も必要であります。殊に戰時中にありての各産業相互並に官衙との協力は、特に顯著なる效果があるのであります。例へば工業の原料が不足した場合 如何に事業主が從業員を愛して居ても背に腹はかえられぬから、矢張り從事員を解屈せんければならぬ樣になる。此際に於ける原料補充に關して當該主管の官衙と産業者との間の連絡協力は、極めて密接であらねばならぬ事は、頃日深刻に實現されてゐます。

又貿易の關係などは、産業者に對して極めて大なる影響があり、此際に於ける官民の連絡の如きも徹底的な協力が必要なのであります。

又各事業場に於ても、轉業者、失業者の相互收拾等が極めて必要であつて、彼の熟練工奪ひ合ひの如きは、道義日本の産業人として實に顰蹙せしむるのであります。

同一事業場に於ても、其設備や能力の程度により、部品の製作に極めて良好の成果を擧ぐるものもあり、又或特種の仕事のみを擔當して極めて適切なるものもあり、一町内各事業場毎に、或は一地方の事業場毎に、相互其能力に應じて業務を分擔し、或は特種器具を融通するが如き等、極めて必要な事であります。從來動もすれば、「商賈がたき」などゝ稱へて、同業者間相反目するが如きは、此際絶對禁止すべきことであつて全産業人が相結束一致して、御奉公することが最も必要なのであります。こゝに於て初めて産業報國の目的を達し得らるゝのかと存じます。

結言

前述の如く全國の各産業人が、道義を基とし相互結束協力することは、事變を有利に導くのは勿論例令極東大戰が捲き起されても、此固き結束こそ何物をも恐れざる力となるばかりでなく、起るべき極東大戰も起らずしてすむことゝもなるかも知れぬのであつて、實に驚くべき大好果を呈するのであります。何卒産業人諸君は、冒頭に述べました皇軍飛行士が敵機に衝きかかる底の勢を以て、自己の利害を第二義として、**何れも率先産業報國の大事業の爲、官民或は相互、協力に獻身的な御盡瘁あらんことを念願して止まぬ次第であります。**